

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 男木島灯台と水仙郷探訪

講師 妹尾 共子（高松市歴史民俗協会会員）

平成23年 2月27日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 男木島

高松港から北、約7.5kmの沖合いにあり、女木島とともに雌雄島を構成します。鎌倉時代から、対岸の香川郡笠居郷に本拠をおいた豪族香西氏の領地であり、室町時代の末ごろには、香西氏の一族高原氏が所有していたと伝わっています。江戸時代に入って寛文12年（1672）幕府の直轄地（天領）となり、大坂、倉敷、各代官所の支配に属したり、高松藩の預かり地になったりしましたが、幕末時代には備中倉敷代官の管理下におかれていました。明治維新後、廃藩置県とともに香川県に属し、香川郡に編入され、明治23年（1890）には女木・男木島合わせて雌雄島村が誕生しました。その後、昭和31年（1956）に高松市に合併しました。

島は南北2km、東西1km、周囲4kmで、その大部分が山地であり、民家は男木港周辺のごく一部の地域に密集し、山の斜面を這い上がるように石段や石垣が見えます。民家の間を縫うように細い道が入り組み、男木島独特の雰囲気を醸しています。



男 木 港

稲作はほとんど行われず、産業は漁業が中心となっています。戦後は150頭あまりの牛を島外に貸し出して（借耕牛^{かりこうし}）生計を立てる世帯も多くなりました。島に帰ってくる牛船の着く港には、総出で迎えに出て、牛の頭や背を撫でさすり労をねぎらいました。牛は勇んで我が家を目指し、家人に先駆けて帰っていったそうです。

総面積 1・37平方km 世帯数124世帯、 人口200人、（男95人・女105人）

《平成23年1月1日調査》

2 男木島灯台



　　く俺ら岬の灯台守は 妻と二人で 沖行く船のく 作詞・作曲 木下
　　忠司のこの曲は「喜びも悲しみも幾歳月」という題で、若山彰によつて
　　歌われました。昭和32年（1957）、同名映画の主題歌に選ばれ、映
　　画とともに大ヒットし、若山も人気歌手の座を不動のものにしました。

　　映画は、海の安全を守るため日本の辺境の地にある灯台を職場に、灯
　　台守夫婦が戦前から戦後にかけて厳しい環境に向かつて生きていく姿を描いています。物
　　語には主人公が台長として勤務する男木島灯台が舞台の一つとして紹介されています。

男木島の北端、備讃瀬戸を一望するトウガ鼻に立つ灯台は、総御影石造りで、中のらせん階段まで御影石でできた凝った造りになっています。

御影石造りで、塗装を施していない（無垢）灯台としては、日本には男木島灯台と山口県の角島灯台つのしまの2か所しかありません。日清戦争直後の明治28年（1895）5月9日に起工され、同年12月10日に点灯されました。備讃瀬戸海域では、明治5年（1872）にできた鍋島灯台（坂出市鍋島）に次ぐ2番目に古い灯台です。昭和62年（1987）に灯台は無 nhân化され、職員宿舎は灯台資料館として整備されました。平成15年（2003）には「完成から百年を越えた今も航行する船の安全を守っているもの」として土木学会により土木遺産として認定されています。

3 水仙郷

平成15年（2003）10月に完成した遊歩道と遊歩道周辺の耕作放棄地約12,0



男木島灯台

00平方メートルに330,000個の水仙の球根を移植し、平成16年(2004)から平成17年の初頭に約8割が花をつけました。
数年後には1000万本の水仙で埋め尽くす計画です。



左記に「男木水仙郷を作る会」ホームページ(20099中)の一文を紹介いたします。

【設立経緯&活動内容】

2003年10月、男木島の自然を周遊できる「瀬戸内海国立公園男木島園地」通称男木遊歩道が完成いたしました。私たちは、この全長1600mの遊歩道を、人が歩く“道”としてだけではなく、先人達が残してくれた自然という遺産を現在から未来へとつなぐ“道”として、また、多くの人々に自然の大切さ、自然のすばらしさを体感してもらい、その心を未来へと引き継ぐ“道”とすることが重要だと考えました。そこで、男木島の自然のすばらしさを多くの人々にも共有して頂きたいとの思いから、古くから「島」に自生する日本水仙の移植事業を考えました。

そして、「男木水仙郷をつくる会・準備会」が主体となり、遊歩道山頂付近1000²m²の伐開地に3万個の球根を実験植付けし、2004年末より2005年初頭にかけ約8割の水仙球根が花をつけ、実験植付けを大成功する事が出来ました。これらの成果を踏まえ、

2005年4月に、同会を発展的解消し「男木水仙郷をつくる会」を設立致しました。

2005年晩夏には、男木島島民有志を中心に、高松市内の高校生をはじめとする約200名のボランティアの協力も頂き、2000㎡の新規伐開地と、男木島灯台周辺・遊歩道周辺地に、併せて5万個の球根の植付を完了致しました。

また、2006年9月にはさらに2000㎡の耕作放棄地及び遊歩道周辺地に、例年の高校生ボランティアに加え、大学生・幼稚園児を含む多くの市民ボランティアスタッフ約300名の参加による植付けを実施し、5万個の球根移植作業を完了しました。さらに、2007年9月と2008年9月の両年も同じく合わせて4000㎡の隣接した耕作放棄地に、13万個の球根を移植し、本年は360万本の水仙の開花を目指す予定です。

私達「男木水仙郷をつくる会」は、本年もさらに2000㎡の耕作放棄地を伐開整地し、2010年2月には1100万本の水仙の開花を目指し、民間力による日本有数の水仙郷を作る予定です。

今後とも「男木水仙郷をつくる会」に対しまして一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「男木水仙郷をつくる会」会長 濱坂 忠義

4 タンク岩（柱状節理）

島の背骨のようなコミ山の北端部で、讃岐岩質カンラン玄武岩の柱が海に向かって突出しています。岩の形が、戦車に似ているので、別名「タンク岩」と呼ばれています。岩床が冷却凝固する時に生じた割れ目の柱状節理と崩壊物からなる岩海とあいまった奇観は地質学的に重要な場所で、高松市の天然記念物（昭和51年7月2日指定）になっています。

5 じいの穴

男木島の中央部にそびえるコミ山の山頂付近にある洞窟で、女木島に住む鬼の一族が桃太郎に攻められた時、鬼の副大将が逃げ込んだ穴といわれています。

また、島のおじいさんが明日をもしれぬ状態になった時、最後の願いで、「じいの穴」の中に湧く水を飲みたいと言いました。それを聞いた孫は、早速、「じいの穴」の水を汲んで飲ませたところ、元気になったという話があります。満潮時には水位が下がり、干潮時には上がるとも言われ、潮の満干と関連があるのではないかという説もあり



じいの穴

ます。

6 豊玉姫神社

豊玉姫を祀った豊玉姫神社は、安産の神さまで、男木島に鎮座しています。民家が密集する背後の小高い頂上にある島の氏神で、境内からは瀬戸内海の眺望が開けます。

創建は天正8年（1580）と伝えられ、「玉宮さん」「玉姫さん」と親しまれてきました。神社由来記には「昔は女木島、男木島、直島の氏神であり祭神の豊玉姫は槌島から来られて彦火火出見命ひこほほでみのみこととご夫婦となり、3カ年間に、男木島殿山の東南麓にある宮家でおすまいになられた」とあります。また、お産の神さまでもあり、神社に伝わる子安貝（神具）でお神酒をいただくとお産間違いなし、と言われていま



豊玉姫神社

7 加茂神社

豊玉姫の夫である彦火火出見命（山幸彦）を祀っています。豊玉姫神社に対して、男の神社と言われ、拝殿両側には、桃太郎伝説にまつわる彫刻があります。島内にはほかに、豊玉姫と山幸彦が出会ったといわれる「神井戸」もあります。

奈良時代に書かれた日本最古の書物『古事記』神話の海幸彦・山幸彦の物語を、瀬戸内海に実在する島々に絡ませた物語になっています。

『古事記 海幸・山幸と海の宮訪問』

ホオリ、兄のホデリの釣り針を失う

兄ホデリ（火照命）は海で漁獵に従い、弟ホオリ（火遠理命）は山で狩獵に励んでいた。ある時、ホオリが兄のホデリに、「お互いに獲物を取る道具、釣り針と弓矢を交換してみませんか。」と三度言葉をかけたが、兄は誘いに応じようとはしなかった。だが、あきらめずに交渉を重ねた結果、ようやく釣り針と弓矢を交換することができた。早速ホオリは海の獲物を取るつり道具で魚を釣ったが、まるで1匹の魚もかからなかった。そればかりか、借りた釣り針まで海中に落としてしまった。当然、兄のホデリは貸した釣り針を請求して、「山の獲物も道具次第、海の獲物も道具次第、やはり自分の道具が一番だ。さあ、お互いに借りた道具を元通り返そうじゃないか。」と迫った。その言葉にホオリは、「兄さんの釣り針は一匹も魚がつれないまま、とうとう海の中に落としてしまいました。」と謝った。しかしホデリは許さず、返せと強く責めたてた。そこで、困ったホオリは腰の長剣を砕いて5百本の釣り針を作り、弁償した。しかし、ホデリは受け取らない。さらに千本の釣り針

を作つて弁償したが、これも受け取らない。「やはり元の釣り針でなくてはだめだ。」の一点張りだった。

途方に暮れたホオリは、海辺にたたずみながら泣き悲しんでいた。そこへ、潮路をつかさどる神シオツチの翁がやってきて「どうしてソラツヒコ（太子）ともあろう方がめそめそしておいでかな、いったいどうなされた。」と訪ねた。ホオリは「私の弓矢と兄の釣り針を交換したのだが、その釣り針をなくしてしまつたのです。兄がどうしても釣り針を返せと言うのでたくさん釣り針を作つて弁償しました。だが、兄はそれを受け取らず、「やはり元の釣り針を返せ。」と行って聞かないのです。それで泣いています。」とため息交じりに答えた。これを聞いてシオツチは「私が御子のために、良い策を考えましょう。」と引き受けた。そして早速隙間なく固く編んだ竹製の小船を作り、それにホオリを乗せた。「私がこの船を押し流しますので、ほんのしばらくそのまま進みなさい。きっと良い潮路（海流）にぶつかります。そうしたら、そのまま潮路のつて海中を進みなさい。やがて、魚の鱗のように棟続きの立派な御殿が見えてきます。それが海神ワタツミの宮殿です。その宮殿の門に着きますと、門の傍に井戸があります。井戸の畔には聖なる桂の木が立っています。その桂の木に登っていらっしゃれば、海神の娘があなたを見て、相談に乗ってくれますよ。」とていねいに教えた。

そこで教えられたとおりに少し進むと、すべてシオツチの言葉どおりだった。海神の宮殿に着くや、すぐに桂の木に登って、娘が現れるのを待った。間もなく海神の娘トヨタマビメ（豊玉姫）の侍女が美しい瓶を持って現れた。侍女が井戸の水を汲もうとすると、水面に光輝く人影が写っている。驚いて上を見上げると、桂の木の上に美しい男がいるので、とても不思議に思った。桂の木に登っていたホオリは侍女を見て「水がほしい。」と声をかけた。侍女はすぐに水を汲むと、瓶に入れて差し上げた。それを受け取ったホオリは、水を飲まないで、首飾りの玉を緒からはずして口に含み、瓶の中に吐き入れた。その玉は瓶にくっついて、侍女は玉を引き離すことができない。仕方なく玉をつけたままの瓶をトヨタマビメに差し出した。

トヨタマビメはその玉を見て、侍女に「もしかして、どなたか門の外に人間がいるのではないの。」と尋ねた。侍女は、人間がおりまして、井戸のほとりの桂の木の上に登っていました。とても美男な方です。姫様のお父上、海神の大殿様にも勝って素敵な方ですわ。その方が水をほしいと言うので差し上げると水を飲まずに玉を瓶の中に吐き入れたのです。ところがどうしても玉をひきはなすことができません。それでそのままお持ちしたというわけです」と答えた。トヨタマビメは不思議に思い、門の外に出て見て、たちまちホオリの美貌に一目ぼれしてしまった。トヨタマビメは父の海神ワタツミに「門の所にとても立

派な方がいます。」と伝えた。娘の言葉を確かめるため、父神は自ら門の外に出て男を見た。「この方はアマツヒコ（天孫）の御子のソラツヒコ（太子）でいらっしやる」と驚いて、すぐに宮殿に招いた。絹の敷物を何枚も重ねて、ホオリを座らせた。たくさんたくさんの結納品を用意し、豪華な食事でもてなして、娘のトヨタマビメと結婚させた。この後、ホオリは3年の間、海神の宮殿でトヨタマビメと結婚生活を送った。3年が過ぎたある日、ホオリは自分が海の宮にきた目的を思い出して、思わずため息を漏らした。すっかり釣り針の一件を忘れていたのだ。

ため息を聞きつけたトヨタマビメは心配し、娘から事情を聞いたワタツミはすべての魚類を召集して、釣り針をのどに刺した赤鯛を割り出した。その上で、兄を懲らしめる秘策と、呪力のある二つの珠しおみつたま（塩盈珠・塩乾珠）しおひるたまをホオリに授けた。その後、高速で泳ぐ鰐鮫わにざめの首に乗って、ホオリはたった1日で地上の国（葦原の中つ国）に戻った。帰国したホオリは海神の指示通りに行動して兄を散々懲らしめた。兄は哀願して従者になることを誓った。以来、兄ホデリの子孫の隼人は、宮廷に仕えてきた。しばらくあつて、海神の娘トヨタマビメはホオリの子を出産するために、海の宮から夫の治める地上の国に向かった。上陸したヒメは海辺に産室を設け、異類である自分の出産する姿を覗かないように夫に約束させた。だが、禁を破ってホオリが覗き見すると、産室の中で巨大な鰐鮫がのたうちまわって

いた。醜い姿を見られたと知ったヒメは、海の宮と地上を往来する夢をあきらめ、傷心のうちに海の国に帰っていった。

生れた子はアマツヒコヒコナギサタケウガヤフキアエズ(鵜葺草葺不合命)と命名された。このウガヤフキアエズが叔母タマヨリビメ(玉依姫 トヨタマビメの妹)と結婚して生まれた4人の御子の末子がカムヤマトイワレビコ(神武天皇)である。(平成21年5月20日 19版発行 角川学芸出版 古事記より)

*玉依姫を祀る神社が女木島に、鵜葺草葺不合命を祀る神社が屋島西町浦生にあります。

8 瀬戸内国際芸術祭 会期後継続作品

90万人を超す来場者でにぎわった瀬戸内国際芸術祭も平成21年(2010)10月31日に終了しました。会期後も全会場で42作品が残され、男木島には坂道と階段が続く集落の路地に、8作品が展示されています。

【男木島の魂(男木交流館)】 ジャウメ・プレんサ

船が男木港に入るとすぐ目に入ります。貝の形から発想した



男木交流館

半透明の建物で、屋根は日本語・アラビア語・ヘブライ語・中国語など様々な文字で構成されています。

【オルガン】 谷口智子

立体迷路のように入り組んだ男木島の路地に、白色に青色でマークしたパイプを配管。望遠鏡や潜望鏡が組み込まれたパイプを覗くと新たな光景が現れたり、ハーモニカや風などの音が聞こえたりと、パイプにそって歩くとたのしくて発見のある体験ができます。



オルガン

【想い出玉が集まる家】 川島猛とドリームフレンズ

新聞や雑誌、チラシなどで球状のオブジェを作り展示しています。男木島の各家庭に眠る手紙や日記など、思い出の詰まった紙を持ち寄り「想い出玉」を製作しました。

【漆の家「黒い部屋」】 漆の家プロジェクト

讃岐漆芸の精緻な技術を駆使し、何層にも塗られた漆を研ぎだして、作品が作られてい

ます。漆の深い色合いが訪れる人を和ませます。玄関前には漆の木が立てかけてあり、漆を掻いた跡がつけられています。

【オンバファクトリー】 オンバファクトリー

古くなった乳母車や島で使用されてきたオンバを、おしゃれに改装して展示しています。

【島こころの椅子】

展示の中で最も標高が高い豊玉姫神社の境内にあるのが、島こころの椅子です。「子供椅子」や「猫椅子」、「雷とうさん椅子」、「肝っ玉かあさん椅子」を設置しています。ひょうきんな表情を見せる椅子たちが出迎えてくれ、この椅子に腰掛けると、瀬戸内海の眺めが目の中に飛び込んできます。

【男木島路地壁面プロジェクト wallalley】 眞鍋陸二

島の路地のあちこちに、彩色された美しい壁画が出現します。鮮やかな色彩で、ぶどうや木々を描いています。



島こころのいす



オンバファクトリー



空き家を利用して、窓から室内に向かって波が入ってくる光景を表現しています。陶磁器製の波が大きくなうねりとなって部屋全体に広がり、花や葉の形をした水しぶきも室内を満たし、海との一体感をもたらしています。

【参考文献】

『瀬戸内国際芸術祭2010公式ガイドブック』2010年6月23日発行 美術出版

『新修高松市史』昭和39年12月15日発行 高松市史編纂室

『香川県の地名』1989年2月23日発行平凡社

『男木水仙郷をつくる会』ホームページ

『古事記』平成21年5月20日 19版発行 角川学芸出版



路地壁面プロジェクト

男木島往復 2月27日(日)

《雌雄島海運》

高松港

男木港

8:00 → 8:40

14:40 ← 14:00



一宮 3月13日(日)

《ことでん》

ことでん築港 ことでん一宮

8:45 → 9:07

9:00 → 9:23



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 一宮から円座へ(旧金毘羅道と香東川を歩く)

とき 平成23年3月13日(日)

9:30～12:00

集合場所 ことでん一宮駅 (円座駅 解散予定)

講師 廣瀬 和孝(香川県歴史民俗協会副会長)

広報「たかまつ」3月1日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

※天候等により中止の場合のみ文化財課(TEL 839-2660「午前7時～開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)

「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず、歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一行で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。